北上川とその水害史

二度の台風の惨劇から 一関遊水地が整備 水害のないまちづくりを目指す

養老4(720)年 「日本書紀」で北上川流域が「日高見国」と呼ばれる

文治5(1189)年 「吾妻鏡」に「北上川」の名称が登場

明治43年 8月、9月に大洪水を契機に国の直轄事業による治水事業が着手された

昭和22年 9月15日、カスリン台風が一関を襲い、磐井川がはんらん。北上川狐禅寺の最高水位17・58㍍、死者・行方不明者1000人の大惨事に

昭和23年 9月16日、アイオン台風が一関を襲い、磐井川は再びはんらん。北上川狐禅寺の最高水位15・58㍍、死者・行方不明者473人と前年を越す大惨事に

昭和28年 「北上川特定地域総合開発計画」が策定。五大ダム(四十四田、御所、田瀬、湯田、石淵)の整備とともに、一関、平泉の河川改修に着手

昭和47年 北上川治水事業計画(一関遊水地素案、補償方針を含む)発表

昭和55年 一関遊水地起工式

昭和56年 8月の15号台風で一関地域を中心に大きな被害。北上川狐禅寺の最高水位は12・5㍍

平成14年 7月の6号台風で北上川狐禅寺の最高水位13・51㍍と戦後3番目を記録。砂鉄川を中心に大きな被害

平成18年 11月、一関遊水地第1小堤着工

平成19年 7月、一関遊水地第2・第3小堤着工

平成19年 9月17日、大雨洪水警報発令に伴う災害。北上川狐禅寺の最高水位は12・18㍍

カスリン台風の被害

昭和22年9月、カスリン台風は秋雨前線を刺激し、県内は12日から豪雨となり、15日に最も激しく降りました。一関観測所の総雨量(11日～15日)は224.3㎜を記録。15日夕から磐井川両側の堤防が破れてはんらんし、一関地域ではで山目の花川戸、川原田(現在の青葉一・二丁目、中央町)などを中心に死者100人の大惨事となりました。

北上川狐禅寺の最高水位は16日午後5時、17.58mに。現在までで最も高い記録です。

その模様は、一関市史で「山地渓谷から大量の水がどっと押し寄せ、しかも夜間の増水が著しく、そのため各地に道路橋りょうの決壊個所を生じ、人畜の被害、家屋の流失倒壊、耕作物の被害等まことに甚大」と描かれています。(写真は最高水位の大町角、現一関信用金庫地主町支店)

アイオン台風の被害

カスリン台風の1年後、昭和23年9月15日の夜から降り出した雨は、16日午後から豪雨となって夜半まで降り続きました。磐井川は夕方、急激に増水。上流から大量の土砂・流木を含んだ濁流が押し寄せ、カスリン台風で崩壊したままの上の橋や磐井川堤防を再び破壊して、市街地に流れ込みました。はんらんした濁流は北上川本流と合流後、午後9時ごろ再び市街地に逆流。一関地域での死者・行方不明者は473人にのぼり、カスリン台風をはるかに上回る犠牲者を出しました。

北上川狐禅寺の最高水位は15.58m、一関観測所の総雨量(15日～17日)は403.2㎜を記録しました。(写真左は濁流で引きちぎられた上の橋、右は肉親の遺骨・位牌を手にした少女たち)

有史以来、北上川は豊かな自然の恵みと恐ろしい水害の両方を、流域にもたらしてきました。古代、北上川流域は「日高見国(ひたかみのくに)」と呼ばれました。文治5(1189)年に書かれた「吾妻鏡(あづまかがみ)」に初めて、「北上川」の名称が登場します。

その中流の一関地方は、昔から有名な水害常襲地帯でした。狐禅寺付近から宮城県境にかけて、約26㌔にも及ぶ川幅の狭くなった部分(狭さく部)があり、さらにはこう配がゆるく、流下能力は上流区間に比べて極端に小さいため、この区間で流しきれない水が、この地域にあふれ出すのです。

北上川の治水史は、江戸時代、川村孫兵衛が手がけた下流部の北上川本川、旧迫川、江合川3川の付け替え工事にさかのぼります。明治43年9月、流域を大洪水が襲ったことをきっかけに、国の直轄による治水事業が始まりました。

こうした中、戦後まもない昭和22年9月にカスリン台風が、23年9月にアイオン台風が一関地方を直撃。多くの死者・行方不明者を出す未曽有の大災害に見舞われました。

これらの被害を受けて北上川の治水が根本から見直され、28年、北上川特定地域総合開発計画が策定されました。この計画に基づいて、五大ダムの整備と、水害常襲地帯である一関地方の河川改修が着手されました。

一関地域の中心部を流れる磐井川は25年、市街地を流れる川幅を約3倍に拡幅するとともに、堤防の護岸工事を年次計画で進めました。

47年、北上川の洪水を防ぐための一関遊水地が計画されました。100年に一度の確率で起こる洪水に耐えられる設計で、大洪水の時は周囲堤により、市街地を水害から守ります。現在も工事は継続していますが、平成10年8月、14年7月の洪水では、農作物の被害はあったものの市街地への浸水を防ぐなど、その効果が現れています。

また、14年7月の6号台風による大雨では、北上川狐禅寺で戦後3番目の水位となる13・51㍍を記録。このとき、砂鉄川流域の東山町、川崎町の堤防未整備区間などで川がはんらんし、大きな被害を受けました。この被害を受け、築堤、橋りょう架け替えなどの砂鉄川緊急治水対策事業が20年3月の完成を目指して行われています。

一関遊水地事業

一関遊水地は山目、中里、舞川地区と平泉町にまたがる面積1450ha。周囲堤と小堤からなる二線堤方式を採用し、第1から第3の3つの遊水地で構成されています。▷洪水調節▷市街地などの水害防御▷遊水地内の土地利用―を目的に、普段は農耕地として土地を利活用し、中小規模の洪水の際は小堤により遊水地内への水害を防御。大洪水のときは遊水地内で洪水調節を行い、周囲堤によって市街地への水害を守ります。

築堤総延長は28㎞。本堤は高さ29.9mで、カスリン・アイオン台風級の洪水も防ぐことができる規模。小堤は高さ23.9～26.6mで、おおむね10年に一度規模の洪水を防ぐことができるように計画されています。

総事業費は2700億円(平成7年改定)の巨大プロジェクト。周囲堤の進ちょく率は約9割で、昨年から小堤工事に着工。平成30年代の完成を目標としています。(写真は平成14年6号台風による水害で冠水した一関遊水地)

磐井川堤防の桜並木

磐井川河川公園堤防には、カスリン・アイオン台風の後、復興への願いを込めてソメイヨシノ100本が植えられました。その桜は今では大きく成長し、市を代表する桜の名所になり、磐井川の両岸をまたぐように泳ぐこいのぼりとともに目を楽しませてくれます。

【参考図書】
■カスリン・アイオン台風50年記録写真集／カスリン・アイオン台風50年事業実行委員会
■写真記録集一関の年輪Ⅱ20世紀の一関／一関の年輪刊行委員会
■一関遊水地事業／国土交通省岩手河川国道事務所
■一関水害写真集大洪水／磐井川堤防補強促進協議会

※この特集で用いたカスリン・アイオン台風の写真は、故横田實さんが収集したものです

砂鉄川で甚大な被害

北上川狐禅寺で13.51mと戦後3番目の水位を記録した平成14年7月の6号台風。東山町、川崎町の砂鉄川流域で床上浸水743戸、床下浸水222戸、JR大船渡線の長期運休など大きな被害を受けました。

このことにより国・県・市が連携し、上下流一貫した砂鉄川緊急治水対策事業を行っています。築堤、排水ひ門、橋りょう架け替えなど総工費約163億円をかけ、20年3月の完成予定となっています。